

私たちの手で支えあいの地域をつくる

▶問い合わせ 高齢者支援係 (☎223局3536)

芦屋町のシニアは頑張っています！

老人クラブ全国大会での表彰の報告

芦屋町老人クラブ連合会会長の古長撓男さんと浜口町の老人クラブ会長の草野浩洋さんが、老人クラブの全国大会で表彰を受けた報告に、波多野町長を表敬訪問されました。老人クラブ活動に精励されている二人は、「小さな町での取組が全国で評価され誇らしい。体が動く間はまだまだ頑張りたい」と力強く話していました。波多野町長からは「日頃から地道な活動に取り組まれている皆さんの活動の成果であり素晴らしい。生涯現役で頑張っていたいただきたい」と激励の言葉が贈られました。



左から古長撓男さん、波多野町長、草野浩洋さん

新規会員の獲得に向けた 鶴松会の取組

浜口町の老人クラブ鶴松会は、現在、54人の会員を抱える町の老人クラブの中でも大規模なクラブですが、平成26年度に草野さんが会長に就任されたときは、今よりも会員が少なかったといえます。

会長の草野さんは、「戸別訪問などで未加入者への勧誘を行ってきた。家に閉じこもってはいもったいない。みんなで集まって、健康のための体操などを行っているが、入ってよかったという声を聞くことが多くうれしい」と話していました。

また、草野さんの熱意に感化された会員の皆さんも、友人や知り合いを熱心に勧誘されているということで、みんなで盛り上げていこうという空気が広がっているということです。全国で154団体、県内では15団体のみに贈られた今回の表彰は、こうした会員増強運動の成果を認められてのことです。

鶴松会の皆さんの声

鶴松会が主体となって開催している浜口町の地域交流サロンで、皆さんの声を聞いてきました。

Q老人クラブに入ったきっかけを教えてください。

A草野さんや皆さんに熱心に誘われて一度来てみたら、思いのほか楽しくてクラブに加入しました。

Q老人クラブに入ってよかったことを教えてください。

A外出する機会が減っていたが、老人クラブに加入したことで定期的に外出するきっかけにもなっている。

A地域で顔だけは知っていた人と老人クラブで知り合うことができた。人との会話がこんなに楽しいとは思わなかった。

A家で一人の時は体を動かすことも少ないので集まって体操をできるのが楽しい。

Qまだ老人クラブに入っていない人へのアドバイスをお願いします。

A興味があったら思い切って一度行ってみると良い。

A一人で行きづらいときは誰かに連れて行ってもらうとか知り合いと一緒にいくと良い。

A高齢になると友人を作る機会も少なくなる。老人クラブに入って知り合いを増やすことから始めてみては。



鶴松会（浜口町）の皆さん

老人クラブに興味を持たれたら…

芦屋町には、16の老人クラブがあり、それぞれの地域で健康、友愛、奉仕のための活動に取り組んでいます。老人クラブという名前ですが、入会資格はおおむね60歳以上で若い人も活躍しています。興味を持った人は、高齢者支援係まで問い合わせてください。

中学生の「税についての作文」表彰式

昨年12月16日、芦屋中学校で中学生の「税についての作文」入賞作品表彰式がありました。

これは、国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が全国の中学生を対象に税の仕組みや使われ方を家庭や自分の周囲で体験したことや見聞きしたことなどの作文を募集したもので、毎年行われています。

芦屋町では、芦屋町長賞を受賞した芦屋中学校3年生の林あおいさんが表彰されました。



「税についての作文」

芦屋町長賞受賞作文を紹介します

税金について

「税金」とは、私たちの生活になくてはならないものといえます。税金は、くらしを支えるためにさまざまなところで使われています。

たとえば、学校教育の振興や保健、医療、福祉の充実、生活の安全の維持など：私たちの身近ないろいろなことに使われています。税金を納めるとたくさん利益があります。ですが、現在、多くの国民が不安や不満を抱えている税の問題があると思います。

一つは、2019年10月から消費税10パーセントになるということです。なぜ、現在の8パーセントではいけないのか、なぜ、たった2パーセントあがるくらいで不満に思うのか。まず、「なぜ、現在の8パーセントではいけないのか」に着目します。その理由は、やはり、今日日本で問題視されている少子高齢化のためです。日本は今高齢者（65歳以上）の割合が世界で一番多い国となっています。2019年となった今、どの先進国より速いスピードで進んでいます。その結

果、医療、年金などの社会保障の分野において、国や社会人の負担は、5年後、10年後とどんどん増え続けます。そこで、現在の社会保障の水準をどう維持していくかが問題となってきます。政府は、さまざまなシミュレーションをした結果2025年度までに8パーセントから10パーセントにし、負担を軽くしていく必要があることを発表し、2019年10月から実施されることになったのです。

次に、「なぜ、たった2パーセントあがるくらいで不満になるのか」に着目します。まず、店側での問題についてです。10パーセントになるとやはり、1万円の物を買うと千円消費税がつくことになりま

▽問い合わせ 課税係
(☎)223局3534

芦屋中学校 3年 林 あおい

パーセントの値段になるからです。つぎに、商店街にある店などは、クレジットカードでの支払いができる所が少ない状況です。ですが、導入せざるをえない現実です。理由は、増税後はカードで支払いをすると2パーセントポイントが付くので、カード払いできない店は、ほかの店に人が流れていってしま

うからです。カード会社に手数料をとられ、新しいレジの導入などで、経営がきつくなってきます。このように、たった2パーセントで全くちがった社会になっていきます。買う側も物価が高くなり、買うことがおしくなり、いやだ！と思うこともありすが、店側も不景気になり、物が売れない不安や不満などもたくさんできてきます。これから、生きていく上で20パーセント増税も遠い未来ではありません。増税をせずに国民一人ひとりが、豊かで幸せな未来をつくっていきけるのか。私たち、学生のとて重要な課題といえると思います。